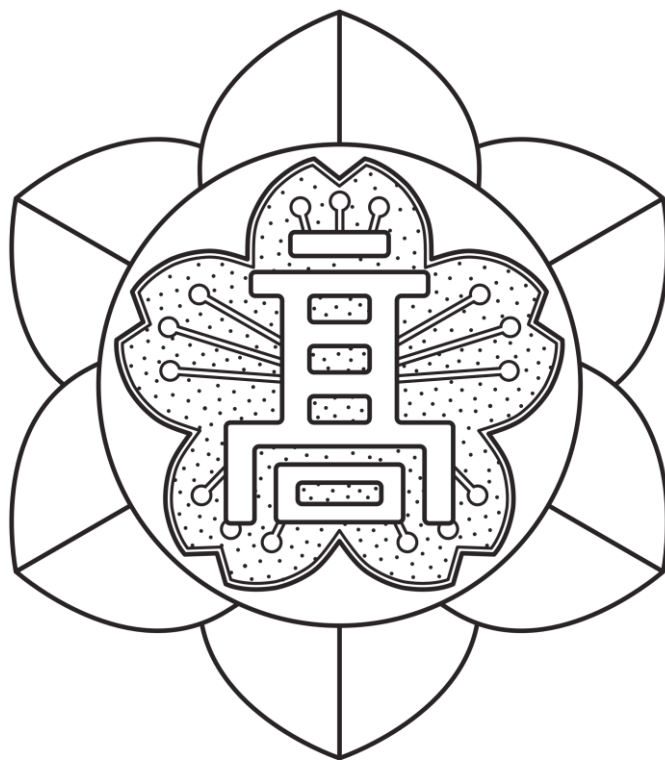


令和5年度  
第3学年用シラバス



静岡県立清水東高等学校

定時制の課程

教科	科目	単位数	履修学年
国語	現代文B	2	3年

使用教科書	副教材等
精選 現代文B (大修館書店)	なし

科目の目標
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと 目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。 B 書くこと 必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。 C 読むこと 近代以降の文章を読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

学習計画					評価の観点			
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	①	②			③
					A	B	C	
4	評論	『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ	・「ノブレス・オブリージュ」という言葉の本来の意味と、筆者の考えを的確に把握し、自分自身の問題としてとらえ直し、自己を見直している。	○	○	○	◎	○
5	評論	「心に『海』を持って」	・文章の構成や、段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえている。特に、国際社会と日本とのかかわり方について考えている。	○	○	○	◎	○
6	言語活動	小論文を書こう	・小論文の基本的な書き方を理解している。(生活体験文発表と対応)	○	○	◎	○	○
7	評論	「政治を支える心構え」	・文章の構成や展開を的確に捉え、政治を支える心構えについて考えながら、将来の社会を担う人間としての自覚をもっている。	○	○	○	◎	○

9	小説	「檸檬」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像、心情の推移を的確に把握している。</li> <li>・檸檬の描写、内的感覚をとらえ、表現を読み味わっている。</li> <li>・詩的感受性・幻想性をとらえ、心理のドラマを通して美的真実について、考えを深めている。</li> </ul>	○	○	○	◎	○
10								
11								
	評論	「こころは見える？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想の転換から導かれる論理展開を正確に理解している。</li> <li>・筆者の問題意識に対して自分自身に引きつけ、考えを深めている。</li> </ul>	○	○	○	◎	○
12								
	言語活動	協働的な話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向けた、協働的な話し合いをしている。</li> </ul>	○	◎	○	○	○
1								
	評論	「地球システムの中の人間」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や、段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえている。特に、生態系のとらえ方について理解し、世界観、自然観などについて考えを深めている。</li> </ul>	○	○	○	◎	○
2								

教科	科目	単位数	履修学年
国語	国語表現	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
国語表現 改訂版（大修館書店）	なし

科目の目標
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。 B 書くこと 相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点			
				①	②		③
					A	B	○
4	書いて伝える	整った文を書く わかりやすい文を書く 文のつなぎ方	より正確に、わかりやすく伝えるためにどのようなことに気をつけたらよいか、書き方の基本を身につけている。	○	○	◎	○
5	小論文・レポート入門	小論文とは何か 反論を想定して書く 発想を広げて書く (生活体験文と対応)	自分の意見を理由・根拠にもとづいて論理的に書き、読み手を納得させられる説得力のある文章の書き方を身につけている。	○	○	◎	○
6	メディアを駆使する	通信文と書き分ける (お礼状事前指導と対応)	形式に沿ったお礼状を作成することができる。	○	○	◎	○
7	自己PRと面接	自分を見つめて 効果的な自己PR 将来の自分を考えよう 志望動機をまとめよう	自分の過去や現在を見つめ、そして将来に向かって歩みを進めるために、「自分」を的確に他者にアピールする力を身につけている。	○	◎	◎	○
9							
10		面接にチャレンジ					

11 12	メディアを駆 使用する	電話を使いこなす ネット社会とコミュニケーション メディアと情報	さまざまなメディアの特性を知り、使い こなすことができる。	○	◎	○	○
1	声とコミュニ ケーション	言葉のストレッチ ショートスピーチをしよう	表情や身振りなど声以外の要素にも着目 しながら、声で伝える力とコミュニケー ション力を高めている。	○	◎	○	○
2	会話・議論・発 表	相手や場面に応じた会話 建設的な議論の進め方 プレゼンテーションの工夫	目的に合った話し方を身につけ、効果的 な表現方法を工夫している。また、身に つけた力を自分の生活に生かしている。	○	◎	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	世界史A	2	3年4修

使用教科書	副教材等
世界史A（東京書籍）	なし

科目の目標
近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。</li> <li>・近現代の世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリント・ノート</li> <li>・発表の内容</li> <li>・図表の読み取り</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の世界の歴史から課題を見出し、歴史的観点から多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリント・ノート</li> <li>・発表の内容</li> <li>・図表の読み取り</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・プリント・ノート</li> <li>・授業内容に取り組む姿勢</li> <li>・発表の内容</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション 第1部 近・現代世界史の背景	第1章 ユーラシアの諸地域世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーラシア諸地域の歴史について、大まかな流れを理解し、基本的な知識を身につけている。</li> <li>・ユーラシア世界の歴史的特質は何かを多面的に考察し、その内容を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
5		第2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア諸帝国の繁栄について、基本的な知識を身につけている。</li> <li>・西ヨーロッパがどのようにして世界商業の中心として発展していくにいったのか、歴史的背景をふまえて考察し、その内容を適切に表現している。</li> </ul>		○	○
6	第2部 成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ	第3章 大西洋世界の変容とその波及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ独立革命とフランス革命の背景としての啓蒙思想、革命を主導した様々な立場の人々の状況と主導権の変化、革命が与えた影響について考察し、その世界史的意義を捉え、その内容を適切に表現している。</li> </ul>	○		○
7		第4章 産業化社会の拡大と成熟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民国家が形成されていく過程について、国際関係を踏まえて様々な観点から歴史的に考察し、地域や国によって立場が異なる理由などその内容を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
9		第5章 アジア諸国の変貌と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア諸国の変貌について、基本的な知識を身につけている。</li> </ul>	○		○
10		第6章 帝国と民族の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次産業革命によってどのように産業構造が変化したのか、なぜ植民地獲得競争の激化につながったのかについて、多面的・多角的に考察している。</li> </ul>		○	○
11		第7章 二つの世界大戦の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの戦争がなぜ起こったのか、国際関係を中心に要因を整理するとともに、様々な視点から考察し、その内容を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
12	第8章 冷戦と民族独立の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後、どのように戦後処理が進められたか、どのような役割を目的として国際連合が設立されたのか、冷戦下で東西両陣営はどのような形で対立していたのかなどについて、様々な視点から情報を整理して判断し、その内容を適切に表現している。</li> </ul>		○	○	
1	第9章 グローバル化の中の危機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦終結によって、なぜ、どのようにしてグローバル化の動きが加速されたのか、また、それとアメリカ合衆国の動きがどのように関連しているのかについて多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。</li> </ul>	○	○		
2	終章 21世紀に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の世界における諸課題についていくつかの事例を取り上げ、取り上げた個々の事例についてそれぞれの歴史的背景を振り返りながら問題点を把握し、世界史的な視野から考察したことを適切に表現している。</li> </ul>	○	○	○	

教科	科目	単位数	履修学年
公民	政治経済	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
政治・経済（東京書籍）	なし

科目の目標
<p>広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育成する。</p>

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> <li>・自己評価</li> </ul>



学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1章 現代の政治	第1節 民主政治の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主政治の発展過程や基本原則について基本的な知識が身につけている。</li> <li>社会契約説や「法の支配」など民主主義の基本原則の意義について考察している。</li> </ul>	○	○	
5		第2節 日本国憲法の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法が規定する基本的人権の内容を理解するとともに、実社会との関わりについて理解している。</li> <li>大日本帝国憲法と日本国憲法の共通点や相違点について比較しながら多面的・多角的に考察している。</li> </ul>		○	○
6		第3節 日本の政治機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の政治機構に関する基本原則について理解している。</li> <li>日本における立法・行政・司法の動向からその課題を多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	○	○	
		第4節 現代政治の特質と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>政党政治や選挙制度、政治参加などについて基本的な知識を身につけている。</li> <li>選挙制度や一票の格差、投票率の低下など政治参加の課題について、多面的・多角的に考察し、あるべき政治参加について自分の考えを表現している。</li> </ul>	○		○
7		第5節 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際機構や国際法が構築された経緯を理解し、その仕組みや課題についての知識を習得している。</li> <li>国際社会における様々な課題について多面的・多角的に考察している。</li> </ul>		○	○
9	第2章 現代の経済	第1節 現代の資本主義経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本主義経済の理論と特徴についての基本的な知識を身につけている。</li> <li>社会の変容に伴う資本主義経済の変容について多面的・多角的に考察し、基本的な動向について適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
10		第2節 現代経済の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場メカニズムがもつ効率的な資源配分の仕組みや、金融、財政の基本的な役割について理解している。</li> <li>日本の金融や財政の課題について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</li> </ul>		○	○
11		第3節 日本経済の発展と産業構造の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後日本経済の発展過程についての基本的な知識を身につけ、変化がどのような背景から生まれたか理解している。</li> </ul>	○		○
12		第4節 福祉社会と日本経済の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本経済が抱える様々な課題について、その現状や背景、望ましい解決策の方向性などについて十分な知識を身につけている。</li> <li>日本経済が抱える様々な課題について多面的・多角的に考察している。</li> </ul>		○	○
1		第5節 国民経済と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易や国際収支の仕組みについて基本的な知識を身につけ、赤字や黒字の意味するところを理解している。</li> <li>グローバル化のメリットと課題・問題点について整理し、適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
2	第3章 現代社会の諸課題	第1節 日本社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本社会が抱える諸課題について多面的・多角的に考察し、課題解決の方法について立場の違いを踏まえながら公正に判断し、適切に表現している。</li> </ul>	○	○	○
		第2節 国際社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の国際社会が抱える諸課題について多面的・多角的に考察し、課題解決の方法について立場の違いを踏まえながら公正に判断し、適切に表現している。</li> </ul>	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	体育	2	3年、4年

使用教科書	副教材等
最新高等保健体育（大修館）	なし

<p>科目の目標</p> <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフの継続する資質や能力を育てる。</p>
---

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<p>選択した運動の技術の名称や、行い方、体力の高め方、課題の解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。</p> <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p>	<p>授業への取り組み</p> <p>プリント・ノート</p> <p>実技・テスト等</p> <p>グループ活動</p>
② 思考・判断・表現	<p>生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p>	<p>授業への取り組み</p> <p>プリント・ノート</p> <p>グループ活動</p>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>授業への取り組み</p> <p>プリント・ノート</p> <p>実技・テスト等</p> <p>グループ活動</p>

学習計画						
月	単元名	学習内容・活動等	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐしの運動 新体力テストに向けた 補強運動)	定期的な運動の継続は、心身の健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解している。	○		
			様々な運動を行うことを通して、自身の体について気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
	体育理論	スポーツ文化（社会体育論）・ トレーニング理論	主体的に取り組んでいる。 トレーニングにおける安全について理解している。	○		○

	陸上競技	短距離走・長距離走・投げる・跳ぶ（体力測定）	自己能力に応じた目標記録や課題を定めている。（記録の向上）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、主体的に行動している。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
5	球技	サッカー ソフトボール バレーボール バスケットボール ハンドボール	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>		
			自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6		卓球 バドミントン （から1種目選択）	練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、健康・安全に気を配りながら、主体的に行動している。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
7	体づくり運動	体力を高める運動 体ほぐしの運動	定期的な運動の継続は、心身の健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	<input type="radio"/>		
			様々な運動を行うことを通して、自身の体について気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		<input type="radio"/>	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			<input type="radio"/>
9	陸上競技	短距離走・長距離走・投げる・跳ぶ（体力測定）	自己能力に応じた目標記録や課題を定めている。（記録の向上）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、主体的に行動している。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	体育理論	生涯スポーツ概論	主体的に取り組んでいる。 生涯スポーツについて理解している。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
10	球技	サッカー ソフトボール バレーボール バスケットボール ハンドボール	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>		
11			自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12			練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、健康・安全に気を配りながら、主体的に行動している。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
1		卓球 バドミントン				
2		（から1種目選択）				

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	ライフスポーツ	2	3年3修

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

科目の目標
各種スポーツに応じて体力の向上や健康の増進を図るとともに仲間との交流やふれあいにより「こころ」の安定と豊かさを育て、生涯にわたって継続的にスポーツに親しむ資質や能力及び態度を育成する。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<p>選択した運動の技術（技）の名称や、行い方、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。</p> <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p>	授業への取り組み プリント・ノート 実技・テスト等 グループ活動
② 思考・判断・表現	<p>生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p>	授業への取り組み プリント・ノート グループ活動
③ 主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	授業への取り組み プリント・ノート 実技・テスト等 グループ活動

学習計画						
月	単元名	学習項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	ジョギング	正しい走り方	ジョギングに主体的に取り組んでいる。	○		○
			安全に配慮して取り組んでいる。	○	○	
	観るスポーツ	スポーツ観戦の文化講義（楽しく観るための方法）	スポーツとのかかわり方について例を挙げて説明している。	○	○	

7	創るスポーツ	<p>小さなスポーツ大会を開催するための簡単な方法</p> <p>大きなスポーツ大会の開催概要誘致の方法</p> <p>広告の方法</p> <p>施設運営の方法</p>	<p>小さなスポーツ大会について、他者と協力して計画を作成することができる。</p>	○	○	
9			<p>スポーツ大会がどのように開催、運営されるのか、理解し、説明できる。</p>			
10	スポーツと健康	スポーツを支える食生活について	スポーツを支える身体作りに必要不可欠な食生活について、例を挙げて説明できる。	○	○	○
11	様々な種目	<p>インディアカ</p> <p>スポンジボールテニス</p> <p>キンボール</p> <p>ジョギング</p> <p>ウェイトトレーニング</p> <p>グラウンドゴルフ</p> <p>(2～3種目抜粋して継続的に行う)</p>	<p>技能の段階に応じて作戦を立てプレイしている。</p>	○	○	○
12			<p>競技会の企画や運営の仕方について理解し主体的に行動している。</p>			
1			<p>ルールを守り、勝敗や結果を受け入れることができている。</p>	○		○
2			<p>安全に配慮してプレイすることができている。</p> <p>自分の課題を解決する方法を工夫している。</p>	○	○	

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	音楽 I	2	3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の音楽 1 (教育芸術社)	なし

科目の目標
音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするための必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	期末試験
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士、それら働きを感受しながら知覚した事とのかかわりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わったり聴いたりしている。	実技試験及びレポート提出による評価
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	出欠及びレポート楽器の練習にどの程度取り組んでいるか。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	日本の歌曲を歌おう	花の街	<ul style="list-style-type: none"> <li>声が出ており、積極的に歌うことができる。</li> <li>曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> </ul>	○	○	○
5	ドイツ歌曲を歌おう	五月の歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>声が出ており、積極的に歌うことができる。</li> <li>ドイツ語の発音を意識して歌うことができる。</li> <li>曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> </ul>	○	○	○
6	日本歌曲を歌おう	夏の思い出	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> </ul>	○	○	○
7						

9 10	日本歌曲を歌おう	浜辺の歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> </ul>	○	○	○
	言葉と音楽	待ちぼうけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> <li>・山田耕筰の業績を理解している。</li> </ul>	○	○	○
11	音楽が表現するストーリーを思い浮かべよう	交響詩「はげ山の一夜」なす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語をイメージしながら聞くことができる。</li> <li>・交響詩とは何か理解している。</li> <li>・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞することができる。</li> <li>・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞することができる。</li> </ul>	○		○
	管弦楽と声楽の織り為す壮大な響きを聴こう	交響曲第9番	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞することができる。</li> <li>・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞することができる。</li> <li>・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞することができる。</li> <li>・作曲者の人間像を把握することができる。</li> </ul>			○
12	言葉と音楽	のばら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の特徴を注意して歌うことができる。</li> <li>・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> <li>・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うことができる。</li> </ul>	○	○	○
1	心の歌	ふるさと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。</li> <li>・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。</li> </ul>	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	美術 I	2	3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の美術 1 (日本文教出版)	なし

科目の目標
美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</li> </ul>	ワークシート 作品制作
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>	ワークシート アイデアスケッチ 作品制作
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	出席率 授業態度 ワークシート アイデアスケッチ 作品制作

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション	美術とはなにか 見る 感じとる 考える 表す				
	課題 1 絵と文字を使って自己紹介	〔絵画、デザイン〕 人物を描く ポスターで伝える イラストレーションの魅力	自己や生活を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			絵画やデザインの効果や表現形式の特性などについて考え、創造的な表現構想を練っている。		○	○
			意図に応じて色鉛筆やマジックなど道具の特性を生かしている。	○		○
		表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表わしている。	○		○	
5	課題 2 自分の顔を 4 段階の明暗で表現する	〔絵画、デザイン、映像メディア表現〕 人物を描く ポスターで伝える イラストレーションの魅力 写真表現	自己や生活を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
4 段階の明暗の効果やその表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。				○	○	
意図に応じてアクリルガッシュ絵具や絵筆など、材料や道具の特性を生かしている。			○		○	



			表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
9	課題3	[絵画]	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
10	立方体に絵を描く	想像を形に	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて画材の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
11	課題4	[絵画]	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
12	四コマ漫画	漫画の表現 日本美術	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて画材の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			四コマ漫画のよさやおもしろさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
			日本の屏風や絵巻物などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
1	課題5	[彫刻]	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
2	清水東に置く彫刻を提案する	彫刻の魅力 生命感や存在感を表す 抽象彫刻で表す 環境を彩る造形	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○

# 外国語科 年間指導計画

教科	科目	単位数	学年
外国語	英語会話	2	3年

使用教科書	副教材等
SELECT English Conversation (三省堂)	なし

科目の目標
英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく学習する表現を理解し、使うことができる。</li> <li>聞き取った情報を統合して相手の趣旨を理解しようと努力することができる。</li> <li>ネイティブスピーカーの自然な速さの英語を聞き取ることができる。</li> <li>相手が話す英語を聞き取り、内容の要点を理解し、応答することができる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語による問い掛けに対し、口頭で回答するために適切な表現を選択することができる。</li> <li>様々な状況に必要な最適な表現を蓄積しようと努力することができる。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な状況設定の中で英語を用いて積極的に会話することができる。</li> <li>英語を実際に用いる場面に出会った時に役立つ表現を習得しようとする意欲をもっている。</li> </ul>

## 学習と評価の計画

時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		領域	NO	記号									
4	1	/	/	/	A1	日常的な話題（「興味のあるものを言う」）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
5	2	/	/	/	A1	日常的な話題（「余暇について話す」）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態	知思態	知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT
6 7	3 4	/	/	/	A1	日常的な話題（「体調について話す」「学校について話す」）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態	知思態	知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT
9	5	/	/	/	A1	日常的な話題（「天気・気候について話す」）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
10	6	/	/	/	A1	日常的な話題（「自分の好みを言う」）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態	知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT
11 12	7	/	/	/	A1	日常的な話題（「都合を尋ねる/待合せをする」）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態	知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT
1 2	8 9	/	/	/	A1	日常的な話題（「道を尋ねる他」）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態	知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄
-----

教科	科目	単位数	履修学年
家庭	子どもの発達と保育	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
子どもの発達と保育（実教出版）	なし

科目の目標
子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

評価の観点と評価規準	評価方法
① 知識・技能 子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を理解しているとともに、子どもの発達に特性や発達過程に対応した技能を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート、作品
② 思考・判断・表現 子どもを産み育てることや、家族の役割・地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し表現する能力を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート
③ 主体的に学習に取り組む態度 子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身に付けている。	ワークシート・レポートへの取組状況、授業への取組状況

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	子どもの発達の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達と乳幼児期の意義</li> <li>発達と保育環境</li> <li>児童観と発達観</li> </ul>	発達の概念や児童観・発達観の変遷について理解している。	○		
			乳児期の心身の発達における環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			子どもの発達特性について自ら学び、保育に主体的にかつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
5 6 7	子どもの発達過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発育</li> <li>子どもの精神発達</li> <li>人間関係の発達</li> </ul>	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達の特性を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解している。	○		
			乳幼児期の子供の健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			子どもの発達について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
9 10	子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と養護</li> <li>子どもの遊び</li> <li>生活習慣の形成</li> <li>健康管理と事故防止</li> </ul>	子どもの生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身に付けている。	○		
			子どもの生活と適切な養護について、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			子どもの生活と養護について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
	子どもの保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の意義と重要性</li> </ul>	保育の意義と方法について理解している。	○		

11 12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭保育と集団保育</li> <li>・保育の方法</li> </ul>	子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			子どもの保育の方法について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
1 2	子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの福祉</li> <li>・子育て支援</li> </ul>	児童福祉の理念と制度について理解している。	○		
			子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			子どもの福祉について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
家庭	フードデザイン	2	3年

使用教科書	副教材等
フードデザイン (実教出版)	なし

科目の目標
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

評価の観点と評価規準	評価方法	
① 知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート 等
② 思考・判断・表現	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート 等
③ 主体的に学習に取り組む態度	食生活に関する諸問題に関心を持ち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。	ワークシート・レポートへの取組状況、授業への取組状況 等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	健康と食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の意義と役割</li> <li>食のとりまく現状</li> </ul>	食事の意義と役割について理解しているとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活を現状と課題を把握し、関連する情報を適切に収集・整理できている。	○		
			健康な食生活の在り方について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
			健康と食生活について自ら学び、食生活をデザインするために主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。			○
5	栄養	<ul style="list-style-type: none"> <li>からだのしくみと食べ物</li> <li>五大栄養素</li> <li>消化と吸収</li> <li>食事摂取基準と食事計画</li> <li>ライフステージと栄養計画</li> </ul>	栄養素の機能や代謝について理解している。	○		
6			ライフステージごとの栄養について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
7			栄養について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。			○
9	食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品と特徴と性質</li> <li>食品の生産と流通</li> <li>食品の選択と表示</li> </ul>	食品の特徴や調理上の特性について理解している。	○		
			食品の生産、流通の現状について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	

10		・食品の衛生と安全	食品について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
11	料理	・調理とおいしさ ・調理操作 ・調味操作	調理操作について理解している。	○		
			調理操作と食物のおいしさについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
12			調理操作について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
1	料理形式と献立	・料理様式と献立 ・献立作成	料理様式の特徴や献立構成を理解している。	○		
			料理様式について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			料理様式について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
2	テーブルコーディネート	・テーブルコーディネート	テーブルコーディネートについて理解している。	○		
			テーブルコーディネートについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			テーブルコーディネートについて自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
情報	情報実務	2	3年

使用教科書	副教材等
基礎からはじめる情報リテラシー（実教出版）	なし

科目の目標
コンピュータやネットワークなどの活用を通して、簡単な実務に使える技能を修得させるとともに、自ら工夫して問題を解決しようとする態度を育てる。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための実務的な技能および、知識を身に付け、効果的に活用し、情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響を理解している。	テストおよび、実習課題等
② 思考・判断・表現	情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響及び身のまわりの実務上の問題を解決するためにコンピュータやネットワークなどを活用することについて、科学的な考え方を生かし、思考を深め、適切に判断している。	テストおよび、実習課題等
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響に関心をもち、身のまわりの実務上の問題を解決するために、コンピュータやネットワークなどを活用し、情報社会の発展に主体的に寄与しようとする。	授業への取り組み、テスト、実習課題等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	パソコンの基本操作	起動と終了	情報をデジタル化し処理する上で基礎となるコンピュータの基本的なしくみを復習する。	○	○	
5	1章 WORD	体裁を整える	問題解決の目的や状況に応じて、適切な方法（ここではWORDの活用）を選択することの重要性を考慮することができる。	○	○	○
6		表を作成する				
7		ビジュアルな文書を作成する				
9	2章 EXCEL	データを入力する	数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェア（ここではEXCEL）を使って簡単な数学的データ処理や分析ができる。	○	○	○
10		計算をする				
11		体裁を整える				
12		グラフを作成する いろいろな関数を利用する				
1	3章 Power Point	簡単なプレゼンテーションを作成する	プレゼンテーション（ここではPower Point）の注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身につけている。	○	○	○
2		オブジェクトを挿入する				
		効果的なプレゼンテーションにする				

教科	科目	単位数	履修学年
職業	職業一般	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
ガイダンス+SPI・一般常識	なし

科目の目標
働くことの意義、職業人として求められる一般的・基本的事項を実践的に学ぶ中で、現代社会における職業について理解を深める。自己分析など進路を考える活動を通して、社会に主体的に参画していく職業人としての資質と能力を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における職業についての基本的問題と職業人としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・現代社会における職業についての諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリント・ノート</li> <li>・発表の内容</li> <li>・図表の読み取り</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことにかかわる事柄から課題を見だし、働くことを通して社会とかかわる人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえながら、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリント・ノート</li> <li>・発表の内容</li> <li>・図表の読み取り</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義や職業人として求められる事柄について関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会に主体的に参画していく職業人としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・プリント・ノート</li> <li>・授業内容に取り組む姿勢</li> <li>・発表の内容</li> </ul>



学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション 基礎学力向上 自己分析	・一般常識・漢字・計算・作文 ・将来の目標、性格の把握	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・自分の過去の経験や言動を振り返り、自らの性格を知るとともに、将来の目標を設定している。	○	○	
5	基礎学力向上 自己分析 面接	・一般常識・漢字・計算・作文 ・自分の関心 ・自分の価値観 ・自分のこれまでの活動 ・面接マナー(所作・言葉遣い)	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・自分の過去の経験や言動を振り返り、自らの性格を知るとともに、将来の目標を設定している。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	○
6	履歴書の作成 基礎学力の向上 面接	・志望理由の明確化 ・一般常識・漢字・計算・作文 ・面接マナー(所作・言葉遣い) ※国語表現と連携を図る。	・自己分析や将来への展望を基に志望理由を書けるようになる。 ・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	○
7	就職活動の実際	・求人票の見方 ・職場見学について ・御礼状について	・求人票の見方を理解している。 ・御礼状の書き方について理解している。	○		○
9	履歴書の作成 基礎学力の向上 面接	・志望理由の明確化 ・一般常識・漢字・計算・作文 ・面接マナー(所作・言葉遣い)	・自己分析や将来への展望を基に志望理由を書けるようになる。 ・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	○
10	基礎学力の向上 面接	・一般常識・漢字・計算・作文 ・面接マナー(所作・言葉遣い)	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	
11	基礎学力の向上 働く自分を守る	・一般常識・漢字・計算・作文 ・労働法規について	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・労働法規の意義などを理解している。	○	○	
12	基礎学力の向上 働く自分を守る	・一般常識・漢字・計算・作文 ・労働法規について	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・労働法規の意義などを理解している。	○	○	
1	基礎学力の向上 社会人としての常識	・一般常識・漢字・計算・作文 ・契約	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・「契約とは何か」、「契約の際に発生するトラブル」などを理解している。	○	○	○
2	基礎学力の向上 社会人としての常識	・一般常識・漢字・計算・作文 ・住宅	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・住宅を建てるための資産形成や建てる上での注意点などを理解している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
公民	新聞購読	2	3年、4年

使用教科書	副教材等
新聞の読みかた（岩波ジュニア新書）	なし

科目の目標
新聞の活用能力の向上と、情報に対し多面的・多角的な視点から判断する能力の向上を図り、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の活用能力の向上と、情報に対し多角的な視点から判断する能力の向上に必要な基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・様々なメディアを活用する技能の基本を新聞の活用を通して身につけ、有用な情報を主体的に選択し、学び方を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の活用を通して、課題を見だし、社会的事象の本質や社会と関わる人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の活用を通して現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なより良い社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> <li>・自己評価</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hとは</li> <li>・記事の構造(見出し、リード、本文)の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hや見出し、リード、本文など、文章や記事の基本的な構造について理解し、それを活用して記事を要約することができる。</li> </ul>			
5	新聞記事の読み取りの基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記事の要約</li> <li>・身の回りの出来事を記事にする</li> <li>・スクラップの手順</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの出来事について簡単な記事を作成し、どんな点に着目して作成したかを他者に表現できる。</li> </ul>	○	○	○
6	新聞記事の意見を読み取る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投書を読む</li> <li>・コラムを読む</li> <li>・社説を読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社説が、ニュースに対する新聞社の意見であり、その意見は新聞社ごとに異なることを理解している。</li> <li>・社説を実際に読み、それを要約したり他者に説明したりすることができる。</li> </ul>	○	○	○
7						
9	新聞紙全体の構造を見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一面の構成</li> <li>・面立て(ページごとのまとめり)</li> <li>・広告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞には、国際面や経済面など面(ページ)ごとにニュースが整理されており、読者が見やすくなるように工夫が施されていることを理解している。</li> <li>・見出し、リード、本文、図や写真の活用など、読みやすい新聞にするために工夫されていることを考察している。</li> </ul>	○	○	○
10						
11	新聞記事の応用的な読み方を にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の新聞の比較</li> <li>・他のメディアとの比較</li> <li>・時系列で情報の変化を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の新聞を比較する中で、それぞれの新聞社の着眼点が異なることを理解している。</li> <li>・他のメディアと比較することにより、各メディアの特徴や活用方法などを考察し、表現している。</li> </ul>	○	○	○
12						
1	情報の批判的な活用を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤報と虚報</li> <li>・情報を出す者の責任について考える</li> <li>・記事に対して質問する</li> <li>・自分で情報を発信する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中に出回る情報には、常に誤報や虚報の可能性があるので注意し、むやみに情報を鵜呑みにすることは危険であることを理解している。</li> <li>・情報を批判的にとらえることで自らの考えを醸成し、その考えを他者に分かりやすく説明している。</li> </ul>	○	○	○
2						

教科	科目	単位数	履修学年
理科	物理基礎（旧課程）	2	3年、4年

使用教科書	副教材等
改訂版 新編 物理基礎（数研出版）	なし

<p>科目の目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	物体の運動と様々なエネルギーについての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
② 思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリント、レポートの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもった振り返りなど、科学的に探究しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの観察</li> <li>・プリント、レポートの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・自己評価、相互評価</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	運動の表し方  様々な力とその働き	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1 速度	身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解している。 物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解している。	○		
		2 加速度	物体が直線上を運動する場合の加速度を理解している。	○	○	○
		3 落体の運動	物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動の関係について理解している。	○	○	
6		第2章 運動の法則 1 力とそのはたらき	物体に様々な力が働くことを理解している。	○		
		2 力のつりあい	物体に働く力のつり合いを理解している。	○	○	○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
7		3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力	運動の三法則を理解している。	○	○	○
9	力学的エネルギー	第3章 仕事と力学的エネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解している。	○	○	
10		4 力学的エネルギーの保存	実験の結果などから、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解している。	○	○	○
11	熱	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1 熱と熱量 2 熱と物質の状態 3 熱と仕事 4 不可逆変化と熱機構	熱と温度について、原子や分子の熱運動の視点から理解している。 熱の移動及び熱と仕事の変換について理解している。	○	○	○
		第3編 波 第1章 波の性質 1 波と媒質の運動 2 重ねあわせの原理 第2章 音の性質 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴	波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解している。 気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて理解している。	○	○	○
12	電気	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー	物質によって抵抗率が異なることを理解している。	○	○	○
1		第2章 磁場と交流 1 電流と磁場 2 交流と電磁波	交流の発生、送電及び利用について、基本的な仕組みを理解している。	○	○	
2	エネルギーとその利用	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電	人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な視点から理解している。	○	○	
	物理が拓く世界	第2章 物理学が拓く世界 1 摩擦をコントロールする 2 エネルギーを有効利用する 3 見えないものを見る	「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結び付いていることを理解している。	○		

教科	科目	単位数	履修学年
国語	静岡県の文学	2	3年、4年

使用教科書	副教材等
新訂 静岡県文学読本 (社) 静岡県出版文化会	なし

科目の目標
静岡県に関わる文学作品を読むことを通して、国語を的確に理解する能力を育成し、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	「静岡県の文学」中の作品の言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	まとまりのある文章を読み、「静岡県の文学」に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを発展させている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	「静岡県の文学」を読む楽しさを味わい、「静岡県の文学」に親しむとともに、本県の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	小説	小説・随筆概説 金色夜叉(尾崎紅葉)	・県内の各土地に由来する作家やその作品を横断的に把握している。 ・作家にまつわるエピソードを知っている。 ・登場人物の心情の推移を的確に把握している。	○	○	○
	随筆	思ひ出すことなど(夏目漱石)	・修善寺の大患について理解している。 ・漱石を取り巻く人物の様子を読み取り、漱石の人間像を知っている。	○	○	○
6 7	和歌	古文概説 万葉集／古今和歌集／後撰和歌集／新古今和歌集	・時代を追い、静岡を舞台とした作品に触れ、静岡県の古典文学の特徴への学びを豊かにしている。 ・歌枕に由来する地名から、静岡県にゆかりのある詩歌の知識を得ている。	○	○	○
	中古	古事記(倭建命の東征) 竹取物語(ふじの煙) 伊勢物語(東下り) 更級日記(暁より、足柄を越ゆ)	・日本の西と東の文化を結ぶ要路にある故郷「静岡」での、旅とのかかわりの中にある文学を鑑賞しようとしている。 ・筆者の周辺状況と考えや心情を理解し、ものの見方、感じ方を豊かにしている。	○	○	○
9 10	小説	伊豆の踊子(川端康成)	・人と故郷のつながりと時代の変化の関係を読み取っている。	○	○	○
	小説	笈の話(梶井基次郎)	・筆者の行動や心理を読み解き、内容や展開を捉え	○	○	○

11			ようとしている。			
12	随筆	南豆荘の将棋盤（井伏鱒二）	・文壇上、地位ある作者の滑稽な随筆について、伊豆との深い関わりを味わい、作中の情景や心情を理解している。	○	○	○
	中世	平家物語（富士川の合戦）	・作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○
	中世	曾我物語（曾我兄弟の仇討ち）	・史実に伝説を交えた軍記物語に触れ、英雄譚のいさましさについて味わおうとしている。	○	○	○
1 2	近代文学	ももこの話（さくらももこ）	・国民的漫画作者のエッセイに触れて味読できる。 ・「人生の選択」について、経験をもとに討議を深めている。	○	○	○
	近世・俳句	野ざらし紀行（野ざらしを心に）	・紀行文学に触れ、折々の情景と心象を句に託した気持ちへの理解を深めている。	○	○	○
	中世	羽衣（天人の舞）	・地元ならではの伝承を深く理解しようとしている。	○	○	○
	短歌	短歌概説 白描（明石海人ほか）	・近代短歌の表現や、時代による対象の捉え方の変化を理解し、和歌文芸の広がり鑑賞しようとしている。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
情報	アルゴリズムとプログラム	2	3年、4年

使用教科書	副教材等
アルゴリズムとプログラム (実教出版)	なし

科目の目標
アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

評価の観点と評価規準	評価方法	
① 知識・技能	情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、現代社会における情報と情報技術の意義や役割を理解し、その技術を適切に活用している。	テストおよび、実習課題等
② 思考・判断・表現	情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、情報社会において適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	テストおよび、実習課題等
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報の各分野に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	授業への取り組み、テスト、実習課題等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	1章 アルゴリズムの基礎	1節 アルゴリズムの基本要素	アルゴリズムとフローチャートの基本的な知識・技能について理解し、効果的に表現している。	○		○
		2節 処理手順の図式化				
5	2章 プログラムの基礎	1節 いろいろなプログラム言語	複数のプログラミング言語および基礎的なプログラミング作成の流れの基本的知識・技能について理解し、適切に表現している。	○	○	○
		2節 基本的な命令文				
		3節 基本制御構造				
6 7	3章 プログラミング	1節 配列	配列・関数および、それを応用したプログラムについての知識・技能を理解し、適切かつ効果的に表現している。	○	○	○
		2節 関数				
		3節 応用プログラム				
9 10	4章 数値計算の基礎	1節 基本的な数値計算	数学等に応用できる様々なプログラミング方法についての知識・技能を理解し、適切かつ効果的に表現している。	○	○	○
		2節 アルゴリズムの工夫				
		3節 数値計算の活用				
11 12	5章 データ構造	1節 基本的なデータ構造	配列・レコード・リスト・スタックについての知識・技能を理解し、適切かつ効果的に表現している。	○	○	○
		2節 リストと木構造				
		3節 スタックとキュー				
1	6章 探索	1節 探索とは	探索とその種類についての知識・技能を理解し、適切かつ効果的に表現している。	○	○	○
		2節 線形探索				
		3節 二分探索				
2	7章 整列	1節 整列とは	整列とその各種法についての知識・技能を理解し、適切かつ効果的に表現している。	○	○	○
		2節 交換法				
		3節 選択法				
		4節 挿入法				



教科	科目	単位数	履修学年
芸術	立体造形	2	3年、4年

使用教科書	副教材等
美術 表現と技法(日本文教出版)	なし

<p>科目の目標</p> <p>彫刻に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な彫刻に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3)彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>創造的な彫刻の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</li> </ul>	ワークシート 作品制作
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、彫刻の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、彫刻や彫刻文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>	ワークシート アイデアスケッチ 作品制作
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>彫刻や彫刻文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	授業態度 ワークシート アイデアスケッチ 作品制作

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	オリエンテーション	彫刻の表現 彫刻の材料 彫刻制作にあたって 現代の彫刻	日本及び諸外国の彫刻作品などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の彫刻の歴史や表現の特質、それぞれの国の彫刻文化について考え、見方や感じ方を深めている。			○
	課題1 新聞紙で動物をつくる	にわとりをつくる	自然を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			新聞紙による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
9 10	課題2 粘土でデフォルメ化	塑造について 塑造から耐久素材へ	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○

11 12	した自分の顔をつくる	頭像をつくる	粘土による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
12 1 2	課題3 石膏彫刻材を削って 野菜をつくる	手をつくる	自然を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			石膏彫刻材による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	日本史A	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
新日本史A 新訂版	なし

科目の目標
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につけている。</li> <li>我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト</li> <li>プリント・ノート</li> <li>発表の内容</li> <li>図表の読み取り</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の近現代の歴史の展開から課題を見出し、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト</li> <li>プリント・ノート</li> <li>発表の内容</li> <li>図表の読み取り</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取り組み</li> <li>プリント・ノート</li> <li>授業内容に取り組む姿勢</li> <li>発表の内容</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	オリエンテーション 第1章 近代国家と社会形成	第1節：世界と東アジア 第2節：近代国家の誕生 第3節：近代社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開国後の政治の主導権をめぐる争いについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> <li>・日本の近代化について多面的・多角的に考察し、国境が画定していく過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
6 7	第2章 二つの戦争と大日本帝国	第1節：日清戦争と日露戦争 第2節：帝国形成期の社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀後半から20世紀初頭の国内の社会状況について基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・日本のアジアでの植民地拡大について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>		○	○
9	第3章 帝国とデモクラシー	第1節：大正デモクラシー 第2節：ヴェルサイユ体制とロシア革命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀初頭の国内情勢と大戦への関わりについて基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・日本が協調外交を推進する背景について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	○
10 11	第4章 デモクラシーの展開と帝国の変容	第1節：都市化と市民文化 第2節：東アジアの情勢と恐慌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正時代の人々の暮らしや文化の状況について基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・国政と外交の方針にどのような違いが生じたのか多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	○
12 1	第5章 アジアの戦争と第二次世界大戦	第1節：日中15年戦争 第2節：アジア太平洋戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1930年代の状況と日中戦争に至る経緯の基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・戦時下の社会の状況と占領下のアジア諸国について多面的・多角的に考察し、皇民化を進めていく過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	○	○	
2	第6章 現代日本の源流	第1節：戦後世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・占領下の日本でどのような改革が行われたのかについて基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・冷戦が東アジアに及んだ結果、人々にどのような影響が及んだのか、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>		○	○

教科	科目	単位数	履修学年
数学	数学活用	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
数学活用（実教出版）	なし

科目の目標
数学と人間とのかかわりや数学の社会的有用性についての認識を深めるとともに、事象を数学的に考察する能力を養い、数学を積極的に活用する態度を育てる。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学と人間の活動、社会生活における数理的な考察についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学と文化のかかわりに着目し、数学が人間の生活にかかわってつくられ発展してきたことやその方法を理解している。</li> <li>・社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数学的に考察するとともに、それらの活動を通して数学の社会的有用性について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し数学を積極的に活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	1章 身の回りの数学 1節 いろいろな場合の数	1 試合数はぜんぶでいくつか	樹形図を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる。	○		
		2 樹形図で考えよう	6つの点の位置の違いで文字を表す点字のしくみを理解している。	○		
		3 点字のしくみ	マス目状の道路について、最短経路の道順を求めることができる。		○	
4 最短距離の道順						
5	2節 身の回りの図形	1 紋章の美しさ	いろいろな紋章の形を調べ、線対称、点対称をもつデザインや、回転移動で重なるデザインについて、その図形の性質を理解している。	○		
		2 平面をしきつめる	平面をしきつめ正多角形について調べようとしている。	○		
		3 多面体の性質	正多面体の性質を考察し、いろいろな多面体について、オイラーの定理が成り立つことを確かめることができる。		○	
4 正多面体の展開図		正多面体の展開図を理解している。	○			
6	3節 数学的な表現の工夫	1 道順とあみだくじ	互いに対応するものの表し方について学び、あみだくじのしくみを理解している。	○		
		2 7つの橋は渡れるか	ひと筆がきができる図形の性質を調べ、ひと筆がきができる図形とできない図形を判断することができる。		○	
		3 行列と経路				
		4 行列の積				

7		5 航路と行列の積	行列について学び、経路との関係を理解している。	○		
			航路と行列の積との関係について理解している。		○	
			身の回りの数学について、数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○
9	2章 社会生活と数学 1節 経済と数学	1 福引きの賞金と期待値 2 単利法の仕組み 3 複利法の仕組み 4 ローンの返済	期待値の意味を理解し、福引き券や宝くじの期待値を求めることができる。	○		
			単利法、複利法のしくみを理解し、利子、元利合計を求めることができる。		○	
			ローンのしくみを理解し、毎月の返済額を求めることができる。		○	
10	2節 測定と数学	1 本の大きさいろいろ 2 地図を読もう 3 坂道の角度を求めよう 4 建物の高さを求めよう	教科書やコピー用紙、文庫本などの形や規格について調べ、A判とB判の規格やコピー機の拡大倍率について理解している。	○		
			地図の縮尺を理解し、地図上の長さや縮尺から、実際の距離を求めることができる。		○	
			坂道の勾配を計算で求めることができる。 勾配の表を用いて坂道の傾斜の角度や建物の高さを求めることができる。	○		
11	3節 コンピューターと人間の活動	1 コンピューターと2進法 2 GPS衛星 3 近似直線 4 標本調査	2進法について理解している。	○		
			位置を知る方法の原理について理解している。	○		
			近似直線の意味を理解し、近似直線の方程式を用いて、いろいろな事象の予測をすることができる。		○	
			標本調査の意味を理解している。	○		
12	3章 数学の発展と人間の活動 1節 数と人間	1 エジプトとバビロニアの数字 2 ローマの数字と5進法 3 “0”の発見と位取り 4 四角数と三角数 5 フィボナッチの数列	記数法のしくみを知り、それぞれの特徴を理解している。	○		
			10進位取り記数法のしくみと“0”の果たす役割を理解している。	○		
			四角数と三角数の性質、フィボナッチ数列の規則性について学び、数列について理解している。		○	
			図形の性質を理解し、面積や長さを求めることができる。 三平方の定理が成り立つことを確かめ、この定理を利用して直角三角形の辺の長さを求めることができる。	○		
			円周の長さや円の面積を求めることができる。 黄金比の意味を学び、2次方程式を解いて黄金比を求めることができる。	○		○
1	2節 図形と人間	1 古代の測量と図形の面積 2 ピラミッドの高さ 3 三平方の定理の誕生 4 ピタゴラスと三平方の定理 5 円周率と円の面積 6 黄金比と2次方程式	図形の性質を理解し、面積や長さを求めることができる。 三平方の定理が成り立つことを確かめ、この定理を利用して直角三角形の辺の長さを求めることができる。	○		
			円周の長さや円の面積を求めることができる。 黄金比の意味を学び、2次方程式を解いて黄金比を求めることができる。	○		○
2	3節 数学と文化	1 カレンダーの数学 2 スポーツと数学 3 長さの単位の歴史 4 音階のしくみ	カレンダーの数字の並び方を考え、いろいろな年の月日の曜日を計算によって求めることができる。	○		
			スポーツと関連してベクトルの意味を理解している。	○		
			いろいろな長さの単位について理解し、計算によって単位の変換をすることができる。		○	
			数学の発展と人間の活動について、数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
国語	現代文A	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
新編 現代文A (第一学習社)	なし

科目の目標
近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	(読むこと) 目的に応じて、まとまりのある近代以降の文章を読み、自分の考えを深め、発展させている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	文章を読む楽しさを味わい読書に親しむとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	評論	なぜ‘コロンブスの卵’を描くのか	・文章の要旨を的確に読み取っている。 ・人間や社会、自然などについて視野を広げ、自分なりに考える態度を養っている。	○	○	○
6	小説	デューク	・場面展開を的確に読み取っている。 ・小説における比喩的表現の工夫を理解している。	○	○	○
7 9	評論	新しい地球観	・各段落の要点を理解している。 ・文章を読んで、現代社会について自分の考えを深めている。	○	○	○
10	小説	ナイン	・語彙を豊かにし、自分の表現に役立っている。 ・人物の描写を的確に捉えている。	○	○	○
10 11 12	評論	花女房 コミュニケーションの文化	・抽象的な表現を含む文章を的確に読むことができる。 ・文章を読んで、社会について自分の考えを発展させたり、自然について自分の考えを深めたりしている。 ・筆者の考えをもとに、自分の考えを文章にまとめることができる。	○	○	○
1	詩	汚れちまった悲しみに… 永訣の朝	・表現上の特色を捉えている。 ・文体や修辞を自分の表現に役立っている。	○	○	○
2	小説	ひよこの眼	・登場人物の心情を自分の言葉で表現している。 ・文章を読んで自分の生き方を見つめ直している。	○	○	○
	評論	経験の教えについて 支え合うことの意味	・文章の構成、展開を的確にとらえ、論理性を評価している。	○	○	○

			<ul style="list-style-type: none"><li>・文章を読んで批評することを通して、社会や文化について自分の考えを深めたり、発展させたりしている。</li></ul>			
--	--	--	---	--	--	--



# 外国語科 年間指導計画

教科	科目	単位数	学年
外国語	生活表現英語	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
英語で読む日本のマナー（成美堂出版）	なし

科目の目標
日本独自の文化、社会習慣への理解を深め、それらについて国内外の外国人に英語で説明できるような発信型の英語力を育てる。

評価の観点とその評価規準	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の各課で新しく学習する表現を理解し、またその表現を使うことができる。</li> <li>教科書の文章を読み、そこに書かれている要点を読み取ることができる。</li> <li>クラスメートが話す英語を聞き取り、内容の要点を理解し、応答することができる。</li> <li>クラスメートが話す英語の質問の要点を理解し、答を見つけ出すことができる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を聞いたり、読んだりし、その内容についての質問に英語で答えることができる。</li> <li>英語による問いかけについて内容を理解した上で回答を見つけ出すことができる。</li> <li>新しく習う英語の用法を用いて、自分の表現したいことを表すことができる。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の文化や伝統そのものへの関心と日本独自のものが英語でどう表現されるかについての関心を持ち、英語を用いてクラスメートと積極的にコミュニケーションすることができる。</li> </ul>

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標				総括のための観点別学習状況の評価の記録	評価場面	評価方法					
		主な領域		CE	FR				L	R	I	P	W
		CAN-DO	ID										
領域	NO	記号											
4	1	/	/	/	A1	日常的な話題（お出かけのマナー：花見）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
5	2	/	/	/	A1	日常的な話題（お出かけのマナー：お祭り）について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。	知思態	知思態			知思態	授・定・他	PT/PFT
6,7	3,4	/	/	/	A1	社会的な話題（食事のマナー：箸）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態			知思態	授・定・他	PT/PFT
9	5	/	/	/	A1	社会的な話題（食事のマナー：器）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
10	6	/	/	/	A1	社会的な話題（食事のマナー：魚料理）について、自分の考えを聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態			知思態	授・定・他	PT/PFT
11 12	7,8	/	/	/	A1	社会的な話題（食事のマナー：寿司屋）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
1	9	/	/	/	A1	社会的な話題（お付き合いのマナー：あいさつ）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
2	10	/	/	/	A1	社会的な話題（冠婚葬祭のマナー：葬式）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態			知思態	授・定・他	PT/PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄
-----

教科	科目	単位数	履修学年
理科	化学基礎（旧課程）	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
改訂 新編化学基礎（東京書籍）	なし

科目の目標
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	物質とその変化についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリントの内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
② 思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト</li> <li>・プリント、レポートの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・課題への取り組み</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの観察</li> <li>・プリント、レポートの内容</li> <li>・発表の内容</li> <li>・自己評価、相互評価</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	化学と人間生活とのかかわり	序編 化学と人間生活	日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学に対する興味・関心を高めることができる。	○		○
			日常生活や社会において物質が適切に使用されている例を通して、化学が果たしている役割を理解している。	○		
5	物質の探究	1編 物質の構造 1章 物質の生物と構成元素 1節 物質の成分	単体、化合物及び混合物について理解している。	○		
			実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けている。	○	○	○
			2節 物質の三態	粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解している。	○	○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
6	物質の構成粒子	2章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造 2節 電子配置と周期表	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。	○	○	
			元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。	○	○	○
7	物質と化学結合	3章 化学結合 1節 イオンとイオン結合 2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。	○	○	
			共有結合を電子配置と関連付けて理解している。	○	○	
			金属結合及び金属の性質を理解している。	○	○	
			イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解している。	○	○	
			分子からなる物質の性質を理解している。	○	○	○
9 10 11	物質と化学反応式	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質量 3節 溶液の濃度 4節 化学反応式とその量的関係	物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解している。	○	○	○
			化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解している。	○	○	○
12 1 2	化学反応	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度と pH 3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	酸と塩基の性質及び、中和反応に関与する物質の量的関係を理解している。	○	○	○
		3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	器楽演奏表現	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
改訂 音楽通論（教育芸術社）	なし

科目の目標
弦楽器を演奏する活動を通して弦楽器についての知識や技能を身に付け生涯にわたり独奏やアンサンブルを愛好する態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	筆記試験 実技試験
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	日々の演奏 実技試験
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊に関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	日々の演奏 出席状況

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点			
				①	②	③	
4	オリエンテーション	楽器の部首名 楽器を弾く基本的姿勢	・開放弦（0）を覚え、美しい弓（ボーイング）ができる。	○			
5	誰でも知っている簡単な曲に挑戦しよう	第一ポジションで弾ける曲 ①きらきら星 ②ちょうちょ ③こぎつね ④むすんでひらいて	・フィガリングをつけた場合、美しい音を奏でることができる。		○		
6							
7							
9	季節に合った教科書に出てくる曲を弾いてみよう	①夏の思い出 ②赤トンボ ③小さな秋みつめた ④星に願いを	・曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏することができる。	○	○		
10			・楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏することができる。		○	○	
11			・様々な表現形態による楽器の特徴を生かし、表現を工夫して演奏することができる。		○	○	
12			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏することができる。	○	○		
1	発表会にむけて	①エーデルワイス ②ふるさと	・曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏することができる。	○	○		
			・楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏することができる。		○	○	

2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現形態による楽器の特徴を生かし、表現を工夫して演奏することができる。</li> </ul>		○	○
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏することができる。</li> </ul>	○	○	